

第74回 理事会（平成15年度第4回）議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成15年11月8日（土）10:00～11:00
2. 場 所： 神奈川県川崎市教育文化会館 楽屋（川崎市川崎区富士見2-1-3）
3. 出席理事：（副会長）廣瀬 稔、古郡 敬一
（専務理事）山田 隆
（常務理事）片 忠夫、渡邊 三郎、越前谷 芳隆
（理事）上田 英之、本田 衛義、柴田 秀一、百海 廷、堀 祐樹、
徳本 進、長久保 巖、岡本 洋一、斎藤 幸雄、菊地 勇二、
木村 徳善、清水 忠、平澤 幸一、栗田 謙悟

欠席理事：（会長）河野 洋平
（副会長）野地 澄雄
（理事）菊地 富士夫、早川 博基、本宮 敏宏

4. 出席監事 井駒 利一、徳田 盾夫
5. 議長選出 山田 隆専務理事を指名
6. 議事録署名人選出 斎藤 幸雄理事、木村 徳善理事を選出
7. 書 記 川上 誠広報委員を指名
8. 議 事

1) 競技本部関係

(1) 報告事項

競技本部セミナーについて

平沢理事より、競技本部セミナーを2回開催した。講師の謝礼分を各事業横並びに統一性を持たせたので、予算がそれぞれ15,000円超過したとの報告あり、追加承認された。

ノルディックの歩くスキーについて

平沢理事より、ノルディックの歩くスキーへの参加者が少ないので、シティフェイス殿の協力により、体験コースを中心とした企画募集を専務理事名にて各協会に配布する予定。1企画あたり最低でも40名の参加者を予定していると報告あり、了承された。

(2) 審議事項

競技運営指導員公認について

平沢理事より、競技運営管理セミナーを開催したが、セミナーに参加した専門委員に『SAK公認競技運営指導員』という資格を公認したい。本来なら公認料5000円かかるが、今年度から今までのルールを明確にして運営を始めることにより、本年度に限り登録料のみの1000円にしたい提案があり、承認された。

予算の追加計上について

平沢理事より、昨年の国体でアルペンの佐藤未桂さんが入賞したことにより、補助金が2万円増額になった。この金額をアルペンの夏期合宿予算に追加したい提案があったが、上田理事より予算の修正はできないので、県体協補助金として決算書にはコメントを加える事で承認された。

県総体実施要項の説明（別紙資料）

栗田理事より、県総体実施要項の説明があり、正式に決まりましたとの報告あり、山田専務理事より「一般成年」を1名にして、「成年D（60歳以上）」を作ってはどうか、又マスターズも人気なので、来年以降検討してほしい要望があった。また、平沢理事から女子の部のリレーなど、ノルディックの種目を増やしてほしいという要望もあり、県のスポーツ課との打合せ時に先方の意見を聞きながら調整することで、承認された。

さらに、30才以上の選手が、年齢下位の種別にエントリーすることが出来る点については、改めて検討して、次回の理事会で報告すること及び得点の点数配分については昨年と同じであることで、了承された。

山田専務理事より、色々な意見が出されているので記録しておき、次の県スポーツ課との打合せに望んでほしいとの指示がなされ、了承された。

2) 教育本部関係

(1) 報告事項

千葉県スキー連盟との懇親会について

渡辺本部長より、千葉県連との懇親会を横浜で開催したとの報告あり、了承された。

指導員養成講習会の開催について

渡辺本部長より、指導員養成講習会を2回開催した。受検申込み締切は11月末日であるが、去年に比べて、20名ほどの減員であるとの報告があり、了承された。

(2) 審議事項

指導員研修会の特別講師について

渡辺本部長から、指導員研修会の特別講師に愛知教育大学の市野聖治教授を迎えるにあたり、その謝金が予算外計上であったので、改めて10万円を計上したいとの提案があり、承認された。

環富士山スキー技術選手権の組別変更について

渡辺本部長から、環富士山スキー技術選手権の組別変更について、従来は男子1部(35歳未満)、2部(35歳以上)であったが、シニアクラスが出場しやすいように、3部(50歳~59歳)、4部(60歳以上)を設けた。また女子も1部(30歳未満)、2部(30歳以上)であったが、3部(40歳以上)を設けることの提案があり、承認された。

但し、男子1部と2部については、1部が40歳未満、2部が40歳~49歳にすることを来年以降に検討することとした。

平成16年度教育本部行事における審判員・検定員及び担当者について

渡辺本部長から、平成16年度教育本部行事の審判員、検定員及び担当者について、別紙資料のとおり選出されたとの提案があり、承認された。

山田専務理事より、教育本部全ての行事に理事3名が入っているが、後進への道を狭めているのではないかと指導的立場にある方が良いのではないかと、または現場作業に回り総務をやることも頭にいれておいて欲しいとの要望がなされ、次年度からは考慮することとした。

千葉県スキー連盟行事派遣者及びSAK競技本部行事派遣について

渡辺本部長から、千葉県スキー連盟行事派遣者及びSAK競技本部行事派遣者について、別紙資料に基き、派遣しますとの提案があり、承認された。

3) 総務本部関係

(1) 報告事項

資金運用について

岡本理事より、資金運用について10月末の残高は昨年度と同等である。9月末では昨年度より70万円程多く残高がありました。詳細は次の理事会で会計状況を報告します。

登録関係について

柴田理事より、登録関係については昨日迄で、横浜・川崎・高体連を除く協会はほぼ完了している。未了部分は、本日あたり届く予定であると報告があった。

スノーボード委員会

百海理事より、1月のスノーボードクロス大会について、アコムから1000万~2000万の資金提供の申し出がある。その申し出には、会場でカード発行を行いたい旨が含まれているが検討中である。また、ミナミスポーツからも協賛に参加したい申し出があり、打合せ中である。大会運営費についての詳細不明であるが、志賀のスキー場からはスポンサーなくても開催したいとの話もあり、詳細については、今後話し合って詰めていくとの報告あった。

片常務理事からスノーボード行事は開催する方向で進めるのかについて、百海理事からは、今の所契約していない不安はあるが、12月にははっきりさせることで、承認された。

山田専務理事から、内容が具体化するにつれ、キャンセル等が難しくなっていくことが想定されるので、最悪のばあい規模を縮小して行うことを志賀高原とも相談してシミュレーションしておくこととの指示がなされた。

H C委員会について

越前谷事務局長より、TOTOの助成金が9月に60万円承認された。これまでに3回の委員会を開催した。競技のビブを作成しているとの報告あった。

広報委員会について

徳本理事より、平成16年度の各本部雪上行事の取材を広報委員が別紙資料に基き、行うとの報告があった。

北海道企画委員会

百海理事より、北海道行事の集客状況は10月末で159名。千葉県2名の合計161名である。去年の同時期に比べ60名多い。本日の指導員研修会でプレゼン実施して参加者を増やしたいとの報告あった。

E決裁委員会

百海理事より、E決裁委員会のメンバーを選定し、今後良く勉強して神奈川県連としてどうやるべきかの所から入っていきたい。時間が掛かるが来年に向けてしっかりやりたいとの報告あり。

山田専務理事から全ての決裁の仕方に関連してくるので、そのところを勉強して「窓口が狭まらないように」検討しなさいとの要望がなされた。

(2) 審議事項

県連事務所の電話回線の運用変更

越前谷事務局長より、2年前に電話回線を増やしたが、間違い電話の増加、費用の増加等を改めて検討した結果、現在の回線を減らして十分可能であるとの試算がでた。但し、これまでに導入した機材のリース料が84ヶ月の契約になっているが解約できるか交渉中である。可能なら早急に変更したいとの提案があった。

さらに岡本理事より、変更内容としては現在は3回線あるがそれを1回線にして、電話はIP電話にする。これにより、年間25万円の削減を見込んでいるとの報告があり、承認された。

指導員登録の救済措置について

片常務理事より、指導員本人が海外出張・転勤となりその間指導員の資格を停止したいとか子供を産んだので2年間登録料を納めなくてよいのかという質問等いろんな問合せがあるので、SAKとして基本的な意志統一をしておきたい。

配布資料にスキー指導員規定の「資格の停止」と「資格の喪失」があるが、問題は喪失で正当な理由なくして・・・とあり、この正当な理由とは何が正当で何が正当でないのかの判断が問題を難しくしている。そこでSAKの方向として、先々は「会員登録規定策定委員会」をつくり、そこで議論をして行きたい。

ただし、審議する時間が必要なので、その間暫定措置として、正当な理由により理由書を策定して、届け出をしていただき、その間指導員登録を免除する。尚、正当な理由としては、海外出張、転勤、お産、疾病による身体の不具合等とする。そして会員登録(SAJ)だけは継続しておくこととする。

以上のことについて、ご意見を伺いたいと思います。この内容で良ければ、本日の研修会で伝達する予定であると提案された。

SAKとしては、会員の資格を保護するという立場から、研修会費用を除いた会員登録費用の3000円(個人登録と年次登録料)を納めることで資格を継続させる。最終判断は理事会で決める。理由書はクラブ長、協会長経由で提出することとし、各会員についての対応は、各クラブ、協会の判断に任せることで了承された。

岡本理事より、去年の10月のSAJ登録後、資格辞退者は31名でっており、年齢層は、若い35歳付近が多いとの説明あった。

山田専務理事より、SAKの組織は楽しく魅力あるものであるように努力をしていくことが我々の任務だと思いますので、各理事にはそのような対応をお願いします。

4) その他

次期役員選出について

片常務理事より、教育庁の指導で「春の評議委員会」(予算評議員会)を5月に開催するよう指導され、そのように開催している。

「旧理事が予算審議をして、新理事がその内容を知らない」という形は不合理であるので、従来のスケジュールよりも2ヶ月早く役員を選出して頂きたい。

配布資料にスケジュールを記載しましたが、12月にまず、役員選出委員を選出する。これは評議員の過半数ですから26名です。これをブロック別に配分します。

1月に選出委員会を開催し、各ブロックから理事3名を選ぶ。2月末には、答申をいただいて、選出を終了する。春の評議委員会で新役員を承認しますが、このような日程で4月上旬からは、新役員を含めて次年度の予算検討に加わるという方向で、6月1日から次期役員が執行する。形

態をとりたい。

これらの内容について、会長名、専務理事名で加盟団体長に連絡書を送付するとの提案がなされ、意見交換後、了承された。

本部予算の超過について

井駒幹事より、競技本部セミナーの予算が超過した件で、予算が超過した時点で総務本部に、金額も含めて、報告がなされているか確認をお願いしたいとの要望あり、片常務理事より会場にて相談受けていると回答があった。

ビブへの名称変更について

佐々木SAJ理事より、「ゼッケン」ではなく、今後は「ビブ」という名称で統一していく方針が、SAJ国際部から発表されたとの報告があった。

広瀬副会長からコメント

皆さんのボランティア精神により成り立っているので、世の中の環境は厳しいですが、皆さんのお力添えをSAK・SAJにいただきたい。また、斬新な新しい考え方を導入しながら事業、あるいは事業の運営を改革していく必要があると思っております。

古郡副会長からコメント

今朝は北海道からは雪情報が入ってきておりますが、スキー界が発展しますよう、また衰退に歯止めをかけるべく、皆様のお力添えをいただきたいと思っております。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記により署名する。

平成15年 11月 25日

議 長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印